

事業方針	事業の推進	・新制度園の体制を整え教員の役割を見直した ・家庭教育の重要性の発信・・・「ペアレントプログラム」の実践により保護者同士が親子関係を考えるきっかけとなった ・環境教育の見直し・・・浜松市のSDGsの会に出席して連携を深めた ・子どもの生活環境についての調査、研究 ※食事面を中心に生活環境に注目する	
	予算編成の基軸	・環境整備・・・南園舎屋上修繕、南園舎エアコン取り換え ・浜松市一時預かり事業を拡大	
	具体項目	内 容	
1	教育計画	満3歳児教育の充実	「子ども誰でも通園制度」の試行事業に取り組む。担当保育士は保護者の中から立候補してもらったため、現場教員の負担が少なく実施できた。同時に参加するお子さんにとっては子どもの集団を体感する場にもなり良い効果をあげることができた。
		小学校との接続	園長が曳馬小学校のコミュニケーションスクールの委員となったことで、小学校との連携が期待できる。*文科省における「架け橋プログラム」の事例により情報収集を行いアプローチプログラムを担当教員が作成。今後、積極的に小学校に働きかけていく。
2	研究計画	指導方法のスキルアップ	新制度園への移行により教員の研修計画が目的を明確化して作成することができた。教員自身においても専門職としての意識が増した。 若手を中心に他園の公開保育へ積極的に参加した。
		リフレクションシートの活用	リフレクションシートを使った振り返りを月1回行い、学期ごとに教員同士の意見交換を実施。まとめとして担当教員が考察を行う。
3	地域連携計画	地域の自然を学ぶ	夏の暑さにより親子体験の機会を設けることができなかったため、今後の工夫が必要。冬期においては、ボーイスカウトととの共同企画を計画したがインフルエンザの流行により中止となった。
			災害対策において、医大の防災センターの協力を経てメディアラリーを実施。自治会にも参加していただいたので、今後の連携を検討
4	施設設備計画	IT化による業務の効率化	園の集金業務をIT化することで、業務の効率化をはかる。今後、各教員の指導計画・記録にも活用していきたい。
		園舎の修繕	南園舎の屋上修繕、エアコンの入れ替えを実施。
5	管理運営計画	教員資質向上	発達支援教育において子どもを中心に保護者と支援計画を作っていく姿勢が必要・・・専門研修を受けた教員が中心となり多面的に子どもの状態を分析する。
		職員の役割分担の再編成	中堅の職員におけるマネジメント研修の受講した。
6	財務計画	新制度園における運営方法を精査する	新制度園に移ったことで、補助金の決定の流れが変わり財務計画の側面より見直し検討が必要。